

A-67 *Candida Pelliculosa* KY11の炭素源資化にみる拮抗現象と塩高張について
相愛女短大 ○小原国彦 玉置ミヨ子

著者等は先に関西支部会に於て土から分離した炭化水素資化性酵母 *Candida Pelliculosa* KY-11 がよく脂質をも資化し、それは脂肪酸ごとに大きく異なること、なお塩化ナトリウム等による塩環境も脂質資化に大きな影響を及ぼし、その影響は脂肪酸によつてそれを特異的なパターンを示すこと及びオレイン酸資化に対する塩阻害除去に一連のメチルドナーが有効であることを報告した。脂肪酸を二種類混在させた場合の挙動は未だ詳細に検討していない。

目的 本菌にブドウ糖はじめ各種脂肪酸等の炭素源を混合して与えた場合に示される挙動を *Normal condition* 及び *Salt condition* について探索し、炭素源の拮抗現象とこれらに及ぼす塩環境の影響を見たい。

方法 炭素源として各種脂肪酸を等モル混合し、0.5M-NaClの塩高張と無塩環境に調整した培地に一定量移植後29°C 48時間又は所定時間しんとう培養した後、菌体量を通じて複数炭素源の資化状況を見た。尚ブドウ糖の定量等は Somogyi変法によつた。

結果 本菌はよくブドウ糖を資化すると共に特によくオレイン酸を資化するがブドウ糖とオレイン酸を共存させた場合、48時間培養をみるとブドウ糖消費量は無くオレイン酸のみを資化していた。尚各種脂肪酸と混在させた場合は資化の悪い側に酷似した生育を示した。塩高張下にも拮抗現象は更に大きく見られた。

かかる一連の研究は塩高張下に於ける本菌の脂質利用と資化のメカニズムを究明する上に重要な手がかりを与えるものである。